

産業と仕事

| 分野1 | 一人ひとりが個性を活かし安心して働けるまち

企業立地促進条例

企業誘致・企業立地は、合併から平成29年度まで実績がありませんでした。そこで、平成30年度に企業立地促進条例の奨励措置に雇用奨励金を新たに設け、さらに令和2年度には雇用要件の緩和と制度の拡充を図りました。これにより、企業へのアプローチがしやすくなり、平成30年度から令和2年度までの3年間で、町外企業4社が町内に進出、町内企業1社が新工場を立地。町内在住者の新規雇用も24人にのぼり、地域経済の活性化と雇用の確保につながりました。また、5社のうち2社は織物関連企業で、丹後地域で育まれた織物技術を求め、進出が決まりました。

条例適用企業数

5社

町内新規雇用者数

24人

ホップ収穫量

4.0 t

食用桜栽培面積

88 a

平成27年度から栽培を開始したホップは、平成30年から令和3年までの4年間で、約4トンが収穫され、水稲・施設園芸に次ぐ新規作物として認知を高めています。町産ホップを使ったクラフトビールメーカーが町内に誕生したほか、アクセサリーやチョコレート、コーヒー等の商品化、収穫体験「ホップレジャール」など、ホップを基軸とした六次産業化・農商工連携が進んでいます。また、商業団体が新たな地域資源として桜の葉に着目。令和3年には法人を設立し、食用桜の栽培・加工に取り組んでいます。

新産業創出

日本一の織物のまち

与謝野町は人口1,000人あたりの織物事業所数が全国で最も多く、名実ともに日本一の織物産地です。この地で培われた織物技術や産地を次世代につないでいくため、設備投資支援や機織り職人養成講座、産地滞在プログラムを実施したほか、若手織物事業者らが国内の繊維産地を訪ね自らの経営力・技術力強化をめざし研鑽を積んだ「ひらく織」など、多彩な取り組みを展開しています。

織物事業所数

人口
1,000人
あたり

20.2 事業所

京の豆っこ米栽培面積

120 ha

水稲作付面積

680 ha

与謝野町では有機質肥料の使用を促進し、化学肥料の使用を低減させる自然循環農業を推進してきました。その中核が町独自の有機質肥料「京の豆っこ」で、京の豆っこ米栽培面積は水稲作付面積の約18%まで広がっています。自然との共生を進める取り組みは、「第8回グッドライフアワード」（令和2年度・環境省主催）で特別賞を受賞するなど、各方面から高い評価を得ています。

自然循環農業

数字とキーワードで見るまちづくりの現在地。

「人・自然・伝統 与謝野で織りなす 新たな未来」。これは、みんなでつくりあげた第2次総合計画（平成30年度～令和8年度）に掲げるまちの未来像です。第2次総合計画は五合目にさしかかり、今年度は後期4年間の基本計画をつくる年になります。そこで、今月号から連載をスタートします。3つの「み」（みんな、みらい、みえる）を基本理念に、7つの分野別方針に基づき進めてきたさまざまな取り組み。今月号では、3つの分野について、数字とキーワードで振り返り、まちづくりの現在地を確認します。

＼ まずは5年前の住民のみなさんの願いや思いを振り返ります /

特に力を入れるべき施策ランキング（平成29年まちづくりアンケート結果）

40歳以上（584/687件）			15歳～39歳以下（103/687件）		
¹ 新たな産業起こしへの支援と雇用の確保 46.7%			¹ 保育サービスや子育て支援の充実 48.5%		
² 災害に強い山や川づくりと防災体制の強化 37.6%	³ 高齢者や障害者の福祉の充実と社会参画の推進 36.4%		² 道路網や鉄道・バスの充実 46.6%	³ 新たな産業起こしへの支援と雇用の確保 35.9%	
⁴ 道路網や鉄道・バスの充実 32.2%	⁵ 住民、地域、事業者、行政の協働のまちづくり 31.9%	⁶ 計画的な土地利用や住宅政策の推進 23.4%	⁴ 高齢者や障害者の福祉の充実と社会参画の推進 33.0%	⁵ 学校教育の充実 31.1%	⁶ 災害に強い山や川づくりと防災体制の強化 30.1%

5年前のみなさんの声はまちづくりの原動力に。

与謝野町では、第2次総合計画を策定するにあたり、住民のみなさんの意向を計画に反映するため、平成29年にまちづくりアンケートを実施しました。15歳以上の町内在住者から2000人を無作為に選り回答をお願いした結果、687件の回答が得られました。

「今後特に力を入れるべき施策」の設問では、30ある施策から最大5つまで選択可としたところ、40歳以上の世代では「新たな産業起こしへの支援と雇用の確保」が最多で、平成23年度の調査と比較すると「住民、地域、事業者、行政の協働のまちづくり」が最も多かった。5年前のみなさんの声がいかにまちづくりに反映されてきたのか。分野別方針に沿って、数字とキーワードから読み取っていきたいと思います。

上の表は、上位6つの回答をとりあげ、若者世代と40歳以上世代の回答内容を比較したものです。世代に応じた施策を講じる必要性が見て取れます。

5年前のみなさんの声がいかにまちづくりに反映されてきたのか。分野別方針に沿って、数字とキーワードから読み取っていきたいと思います。

健康と福祉

分野 3 | みんなが自分らしく幸せに生きるまち

人財育成・人財確保

保健・医療・福祉分野においては、人財不足の解消が大きな課題です。福祉分野では若い世代の職員の離職が目立っていることから、福祉事業所に就職した職員の介護福祉士資格取得を支援するため、研修費補助金を交付し、平成28年度から3年間で52人を支援。令和元年度には制度を改正し、介護福祉士修学資金貸与制度を創設しました。また、宮津市・伊根町とともに地域医療確保奨学金貸付制度を設け、平成30年度から令和3年度までに、医師志望者2人、看護師志望者25人に奨学金を貸与し、地域医療体制の維持に向けて支援を行いました。

福祉事業所数

74事業所

福祉事業所従事者数

924人

民生児童委員数

67人

誰が安心して暮らせるよう、地域での支え合いの力を活かし、支援を必要としている方の孤立化を防ぐ取り組みを実施しました。身近な相談相手である民生児童委員の活動支援をはじめ、子育て支援センターや児童家庭相談室（クローバールーム）での専門家による各種相談、町内11カ所での認知症カフェ、精神障害者の居場所づくりなど、心のよりどころの充実を図りました。

心のよりどころ

健康寿命

京都府民の健康寿命は、男性71.85歳、女性73.97歳です。平均寿命は全国平均を上回っていますが、健康に生活できる期間である健康寿命は全国平均と比べ短くなっています。与謝野町では、健康寿命を延ばすため、健康相談や健康教室を実施しているほか、自ら健康状態を把握でき、病気の早期発見・早期治療につなげられるよう合併当初から特定健診とがん検診（肺・胃・大腸・乳・子宮・前立腺）を同時に無料で受診できる制度を設け、さらに社会保険被扶養者も町の特定健診とがん検診を受診できる体制を整えています。特定健診で把握した特定保健指導対象者への指導を積極的に実施した結果、メタボリックシンドローム該当者が年々減少しています。

特定健診受診率

41.2%

がん検診受診率（平均）

39.6%

交流と発信

分野 2 | 地元を誇りに想い、人の流れを生むまち

移住者数

25世帯 62人

移住支援制度・移住相談窓口

北部5市2町や国・府との連携事業等の合同移住定住相談会に与謝野町ブースを設置し、他府県からの移住希望者の相談機会を増やしたほか、空き家改修費用補助金や、新築・中古住宅を購入した子育て世帯の移住定住支援補助金、移住特区外の登録空家改修の補助制度等により、移住者数は平成30年度から令和3年度まで毎年増加傾向で推移。期間合計は25世帯62人で、令和3年度は12世帯34人で過去最高となりました。この流れをさらに進めるため、令和3年度から移住支援窓口業務を委託し、町が対応できない庁舎閉庁日に移住希望者等の受付対応ができる体制を構築。移住検討者・移住希望者・移住者のサポート体制の強化を図りました。

ふるさと納税

平成30年度から令和3年度までの4年間のふるさと納税額は、1億6,000万円を超えました。この間、令和2年度には個人を対象とするふるさと納税額が4,700万円超と年間の最高額を達成。令和3年度には企業版ふるさと納税の受入体制を整備するとともに、旧加悦鉄道車両の保存事業を対象としたクラウドファンディング型ふるさと納税も実施したことで、約1,200万円の寄付が得られ、ふるさと納税を通じて町に関心を寄せてもらうことができました。

ふるさと納税額

1.6億円

観光入込客数

142万人

観光消費額

19.4億円

平成30年度から令和3年度までの4年間の観光入込客数は、コロナ禍の影響を受け、平成29年度以前4年間と比較すると約43%減の142万人となりました。一方で、観光消費額は約22%減にとどまっており、これは「ファン化促進」をテーマに進める観光協会の取り組みの成果と言えます。この間、地域資源を活用した16の体験プログラムを造成。また、町においても旧加悦町役場庁舎、クアハウス岩滝、かや山の家の大規模改修を実施し、コロナ後を見据えた施設の充実を図りました。

与謝野ファン化



アンケートフォーム

令和5年度から4年間の計画づくりに向けて、「まちづくりアンケート」を実施します。15歳以上の町内在住者から無作為に抽出した2000人にアンケート用紙を発送します。お手元に届きましたら、アンケートへご協力ください。届かなかった方も、左記の二次元コードからアンケートに回答できます。みなさんの声をお寄せください。

6月中旬発送

2,000人
まちづくりアンケート

7/24 第1回
8/28 第2回
9/25 第3回

第4日曜に知遊館でまちの未来を話しましょう！

まちの未来を語り合うタウンミーティング「よさの未来会議」を開催します。全3回の詳細は、6月24日発行の「広報よさのお知らせ版」でお知らせします。

未来会議
開催決定!!